

F | 血管緊張度の異常

血管壁の緊張度は上昇することも下降することもあるが、緊張度が上昇した脈について述べる。主なものは弦脈と緊脈である。血管壁の緊張であるから、浮取で明瞭に触知できることが多い。

1. 弦脈（げんみやく）

脈象：端直而長，如按琴弦
主病：肝胆病・諸痛・痰飲・瘧疾

ぴんと張った弦に触れたように、まっすぐで長くはっきりと触知できる脈である。

血管壁の緊張が高まって弾力性が減少し、拍出された血液の拍動の影響があらわれにくくなり、張りつめたような血管として触れる。図13の脈波模型で概念的に示すように、急激に立ち上がってすぐに下降せず高圧の状態が一定時間持続することである。

実際の脈波で得られた弦脈の特徴は以下のようである。

- 駆出波の内角が広い。
- 駆出波の頂上の形は、斜切状・平坦・切跡状・弓背状などを呈する。
- 大動脈切痕が高いことが多い。



■ 図13 弦脈の脈波模型

なお、実際にみられたさまざまな形状の弦脈を図14に示している。

(1) 肝胆病

肝胆は疏泄を主り気機を円滑に運行しているが、肝胆の病変で疏泄が失調すると、気機が不利となり脈気が緊張して弦脈となる。

肝鬱では弦で有力，肝火・胆火では弦数で有力である。

脾虚に乗じて肝気が横逆する肝脾不和でも弦脈がみられ，弦細を呈することが多い。

(2) 諸痛・痰飲・瘧疾

疼痛・痰飲は気機を阻滞し，瘧疾の寒熱発作は気機を失調させ，いずれも脈気を緊張させて弦脈を生じる。

(3) その他

動脈硬化の老人などにみられる弦で硬い脈は，胃気が低下していることを示す。

春季に弦で柔和な脈を呈するのは，正常な現象である。